



2013 クリエイターがつくる バードハウス展 + 世界の作家たち

あなたが想う、あしたのバードハウス
大阪から世界へメッセージ





大阪から世界へメッセージ あなたが想う、 あしたのバードハウス

このたび、大阪市と公益財団法人大阪市都市型産業振興センター クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町、そしてNPO法人バードハウスプロジェクトは、「2013クリエイターがつくるバードハウス展」を開催する運びとなりました。

「バードハウス展」は、元々は大阪生まれ。1993年に地球環境や自然との共生をみんなで考えることを目的に始まった活動です。そのお手本となる"発想の種"を示すために、「クリエイターが考えるバードハウス」の制作を国内外で活躍するクリエイターに依頼。そうして生まれたたくさんの作品を、日本各地はもとより海外でも展示し、文化も宗教も言葉の違いも越え、自然環境の大切さを考えてきました。今回のバードハウス展は、いうなれば発祥の地・大阪から再び世界に向けての発信となります。

本展では、このバードハウスプロジェクトの主旨にご賛同いただいた関西のクリエイターたちの作品だけではなく、これまで生まれてきた世界のクリエイターたちの作品もともに展示いたします。「大阪から世界へ」クリエイターたちの地球環境へのメッセージをお受け取りください。

2013年11月

公益財団法人大阪市都市型産業振興センター
クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町

NPO法人 バードハウスプロジェクト



「自然との共生」や
「環境問題」って
どこからどんな風に
考えたらいいの？

もし、子供たちから
こう質問されたら
あなたはどうか答えますか？



「自然との共生」や「環境問題」の大切さは、誰でも知っている。
しかし、それらの問題をより身近に考え、解決するために、
何をどう考えていけばいいのか・・・。

バードハウスプロジェクトは、バードハウス(巣箱)という小さな住空間を通して、私たちの「すみか」である地球の未来を考えるプロジェクトです。世界で活躍するアーティストやクリエイターに制作を依頼し、そのコンセプトを広めて行くことで、込められた思いや知恵を知り、見る人の想像の翼を広げ、豊かな地球環境のあり方を考える場をつくりだしていきます。

バードハウスとは？

人間が鳥のため作った構造物。その起源には様々な説があります。その説のひとつに、木を伐採した後、地上に落ちてしまった鳥の巣を見つけた人の話があります。「鳥たちが恐がらず、安全に自然のなかでちゃんと暮らせるようにするにはどうすればいいだろう？」。

彼は知恵を絞り、木で作った屋根を巣にかけるとを思いつきました。そんなバードハウスを気にとめたとき、私たちは、ふと、思いました。「バードハウス(巣箱)は、年齢や住む国や宗教にあまり関係なく、誰もがわかる、誰もが知っている。バードハウスは、人間と生き物と自然とが上手に共生しながら生きていく方法を考えるきっかけになるのではないだろうか。」

私たちのプロジェクトの出発点は、ここにありました。



地球もまた人や生きものの「巣箱」と言えます。

世界を見渡せば、人々はさまざまな自然環境のなかで上手に家をつくり、暮らしています。家のカタチや材料は異なりますが、どの家も、自然とケンカせず、逆に自然をうまく活用しながら暮らせる構造物になっています。

私たちは思います。

自然との関わり方は、バードハウスをつくることと同じなのです。

バードハウスを考えてくれませんか？

この問いかけに、世界各国さまざまな分野のクリエイターたちが答えてくれました。そのジャンルも多彩。宇宙デザイナー、人工知能デザイナー、空港デザイナー、美術館デザイナー・・・など。彼らの専門知識と創造力を発揮して、フィロソフィー豊かなバードハウスを考えました。それらは単なる「作品」という枠を超え、さまざまな感銘と創造力の種を授けてくれます。

「鳥たちがうまく暮らせる家はどんなものがいいのだろう？」

自然のこと、鳥のこと、人のこと、未来のこと。

今回、このプロジェクトに参加してくれたのは大阪を中心に活動する多くのクリエイターたち。彼らと共にあなたもこのプロジェクトに参加しませんか？

近年、気象環境の変化をはじめ、私たちを取り巻く環境が大きく変わってきました。またネット社会という新しい環境を手に入れました。同時に様々な問題が生まれ複雑化していきます。

人類は、これまででも困難な出来事に行き当たったとき、「どうすればいいか」と考えてきました。考えて、そして行動し、世の中を良い方に変えてきました。環境問題はもちろん、さまざまな難問も解決する道がきっとあります。

さあ、あなたもこのプロジェクトの参加者です。

みんなで、考えませんか。みんなで、夢を見ませんか。

あなたなら、どんな「バードハウス」を発想されますか？



立体部門



tamago

浅山美由紀

BLC ART 美術家

巣箱の中には何があるのだろうか？
「tamago」だ。未来に繋がる「tamago」だ。
人間は森を破壊してきた。そして鳥たちは自分の力だけで巣作りしたり生きて行く事が難しくなった。
森を壊した人間たちが、今、鳥たちのために巣箱を作る。
鳥たちが自らの力で自由に生きて行ける日のために、巣箱なんて要らなくなる未来のために。未来に繋がる「tamago」たちのために。



THE BIRDSTAGE

内野敦明

あかり・きれい・うれしいプロジェクト
照明デザイナー



鳥たちも、たまには華やかに羽をのばして楽しみたい。
命を守るための知恵は、すでに鳥たちのDNAに組み込まれているだろう。
生き残るためには、いかに楽しみながら変化に対応していくかが鳥生「人生」である。
バードステージは、その鳥たちが光を浴びて輝く、楽しむステージである。



Axis of Earth

大浦イッセイ

アイモ株式会社 プロダクトデザイナー

大阪ー岡山間の距離、垂直にこの距離を移動すれば宇宙空間に出てしまう、地球のサイズと比較すれば、皮一枚ほどのこのハビタブルゾーンの中で、地球上のすべての生命が存在しているという奇跡に、生命の未来はどのくらい持続可能なのだろうかと考えてしまいます。
我々は、この大気圏があるがゆえに青く光る奇跡の美しい星だと思ひ込んでいますが、地球からしてみれば、他の星のように大気圏がなくなり、宇宙線をもるに受け、生命体がない方が良い環境なのかもしれません。逆に、生命体からしてみれば、地球上のこのわずかなハビタブルゾーンこそが、すべての生命のバードハウスであることは間違いありません。
私は、地球の公転面の法線に対して23.4度の地軸の傾きを表現したこの作品を通じて、回転が作り出す宇宙と地球と命との関係と、その奇跡を、想像してもらえればと思いました。



milca



ノアの子供

岡田 貢

M++(エム プラス プラス)
照明器具設計

ぼくたちは生まれた瞬間(とき)からあらゆる危険にさらされている
大地 海 空
ぼくたちを包みこむ
全てのもの
便利さと引き換えに失われてきたものたち
安全な場所はもうどこにもないの？
ぼくたちはもうすぐ飛び立つ
飛び立とうとしている
それは今
なんだ
補追:土から木へ、木からメタルへ、進化してきた世界。まだしも有機的な繋がりがあった世界は、メタルの鋭いエッジで外部を拒絶する鎧をもつこととなった。しかし、今、その鎧は失われてしまい、迷っている。わたしたちは翼を持って飛び立ち、世界を、自身を見直す必要がある。



すのいえ

おとはとな

建築士たちとデザイナー



milca

窓から見える木には、バードハウス。主である名前のない小鳥がそこへ帰ることを待ち「おかえり」と声をかける。
小鳥が鳴くちいさな声は風によって、豊かな瞬間を共有します。
私達はバードハウスを「人の生活と自然を緩やかに繋ぐモノ」としてデザインしました。
家型をしたバードハウスに「住まい」=「安らぎ」を感じ、そこに鳥が住まう事で家族の一員が増えたように感じることでしょう。
穴の空いた段ボールを30枚重ね箱を作ります。穴の大きさは内部になる程大きくなり、住まいに快適な鳥の巣のような内部空間を創り出します。
ハニカム構造の段ボールの端部から風とやさしい光を内部空間に取り入れることが出来、アルミ製の切妻屋根がこの住まいを雨から守ります。
バードハウスを50倍スケールアップすれば 風と光をはらむ建築構造として新たな可能性を秘めています。



屋部巣箱

榎山和彦

KIWISHOP OFFICE プランナー

鳥と共に生活を送る願望にはいくつか方法がある。野鳥を観察するバードウォッチング、飼育用の鑑賞鳥類を入れるバードゲージ、そして野鳥を呼び寄せ可能であれば共に暮らすバードハウス。鳥の立場からすれば安全で快適な設置環境であれば適度な穴のある箱で充分であるが、人の感情や思い入れから様々なデザインや製作手法が用いられる。
創るバードハウスの型を、今の製作者としての私が具体化したのは沖縄とある地域のシンボルとなる建造物で、過去の産業遺産でもある煙草の葉の乾燥施設。稼働期には各地にあった日常の光景の中のカタチであるが、現在では此所一カ所しか存在しない。最後になってしまったのだ。
鳥と共に暮らす願望と、地域の産業遺産を伝え続ける願望で、地域の解体する住居の古材を使用してカタチを再現したバードハウスが地域の防風林であるフクギの並木の所々に設置され、野鳥と暮らす集落の誇りを歴史と共に語り継ぎたい。





Bird house on the garden

柏木 二美

イラストレーター・オブジェ作家

小鳥たちが安心して暮らせるような家ってどんな家だろうって想像しながら素材を集めてみました。

まず屋根を羽根で覆い壁面は木の素材にして、ちゃんと閉まるドアをつけて入り口の壁面はピンクのタイルでアクセントをつけてみました。

そして緑がイッパイの庭の木にぶら下げて、それを観た人が癒やされるようなバードハウスになればいいなと思いながら制作しました。



D.I.Y.

河上友信

GLAN FABRIQUE inc. DESIGN WORKS
空間デザイナー

まずは、鳥たちがどうやって“自邸”をデザインしているのかを知るために、巣の構造と作り方をリサーチ・解体したら、材料は全て近所を5分も歩き回れば手に入るものばかりでした。次は集めた材料で彼らと同じように作りましょう！と思って作り始めるも、出来ない。彼らは人間には真似のできないスゴイ技術を駆使して巣作りをしています。彼ら以上のものは到底出来ないと早々に諦め、それでは申し訳ないので材料集めだけをお手伝いすることにしました。厳選素材を取り揃えましたので、あとは“Do It Yourself”をお願いします。



風のを聴く バードハウス2013

加藤信喜・奥村亜希

畿央大学 健康科学部
人間環境デザイン学科 デザイナー



地球上で最も美しい音は鳥の声だ。

もしかして人間は鳥のさえずりを聴いて音楽を創造したのかもしれない。

いや、鳥の声を音楽にしてはじめて人間に進化したともいえる。

モニュメントは沈黙が常である。

視覚のみならず、聴覚にうったえることで、その可能性は広がる。

風がぬける。風を感じ、風の音を聴く。風の音は鳥の声になる。鳥のさえずり。



フラワーハウス

川西純市

サインズプラン サインデザイナー

防水シートで縫製された仮設用バードハウスモデルです。上部からつり上げると花のように膨み、収納時は折りたたむことができ、軽量です。「鳥の暮らしを人が共有する」をコンセプトに、サイズを大型化し、人的な利用も視野に入れた非常時の仮設ハンモックやキャンプ、ソーラーLEDライトを組み込んだ移動式照明などの利用を考えました。



循環する想い

金内まき

かねうち事務所 編集者、DIYアドバイザー



本の森、ページの家

黒田 武志

sandscape デザイナー・造形作家

ヒトの子を愛しく大切に想う気持ち。新しくつながっていく命を祝う気持ち。小さな鳥たちの暮らしにも同じように、このまなざし、想いを注ぎたい。わたしたち一人一人がそうすることで、もっとも小さな住空間であるバードハウス、ひいては地球環境について考え、大切にすることにつながると信じています。

作品の素材はすべて廃材。愛情こもった育児用品や祝いの気持ちをまとったラッピングリボンで「想いの循環」を、廃物を利用することで「モノの循環」を表現しました。

唯一、ヒトだけが持っている「想い」。自然環境から受けた恩恵に感謝し恩返しするためにまず、鳥たちへ優しいまなざしを向けたいのです。

森の木からできた紙で作られた本のページを、もう一度森に還す。これは鳥達の棲家だった森を本によって再生するところみです。円筒形の家は本のページを筒状にしたもの。土台となるのは流木で、それはそのまま海に浮かぶ島にもなり海鳥の家になる事も出来ます。そして本の家に棲む鳥達はそれぞれが違った物語の中で生きるのです。



吹き抜けもある二層式
快適空間バードタワー
酒井コウジ+藪田忠之

SIESTA International Associates with ACT
建築デザイン

1. 鳥たちが楽しめるコミュニケーションハウス
(吹き抜けもある二層式快適空間)
2. UPCYCLING of bird house 廃材を利用したバードハウス



+bird house
恒岡真紀子
display designer

ヒトとトリをつなぐ。
ヒトと自然をつなぐ。
ヒトと世界をつなぐ。
ヒトと地球をつなぐ。



いくつもの【面】を足していくことで、立体的な空間が生まれる。
隣り合う【面】は、それぞれ異なる意味を持つ。
人工物・大地・空・海・太陽・植物・動物・国・・・
地球上にあるあらゆるものがつながり、浮遊し、象徴的なオブジェクトとなる。
そうしてできた空間に鳥が暮らす。小さなものには虫が暮らすかもしれない。
【面】を増やし空間を広げれば人間が暮らすこともできるだろう。



小さなかぐや姫ハウス
中川佳英子

奈良デザイン協会 ジュエリーデザイナー

自然の素材である瓦土で瓦を独自に練り、焼成制作して、竹とのコラボで、長く耐久性があり、自然の山にかえることも考慮して影響が少なく、又木の枝にかけて固定する為には柄の部分は取り外して、麻の糞紐でくくりつけることも可能なように、特に小型の鳥が安心して巣作りができるように、外敵から守れるように、小さな小鳥の世界が、かぐや姫のように小さな世界が創造できるようにイメージして思いをこめました。



Quick and Easy Bird House

Tanaka Satoshi × Design Logistics by Kan-kaku

クリエイティブユニット

このバードハウスは四角い段ボール箱から生みだされる。
2011.03.11 日本で大きな災害が起きた。自分たちの住む家も働く場所もいっぺんに無くしてしまった。そのような状況の中でも鳥の家の事を考える事が出来ただろうか。ものがなくなった現地には徐々に物資が届けられる。その物資が入っていた段ボール箱で簡単なスツールを作る事ができる。

Quick & Easy Stool

田中さとし氏の考案したアイデアである。そのスツールから巣箱をつくった。なにもなかった場所に物資が届けられ、ひとつのアイデアから腰掛けと場が生まれる。そこに少しだけ心の余裕が生まれ、空を飛ぶ鳥の事を考える。そんなストーリーからうまれたバードハウス。

今回の展示がこのアイデアを少しでも多くの人に知ってもらうための一助になれば。
Design Logistics by Kan-kaku



aida
堤 庸策

arbol 建築家

鳥の巣のイメージと言えば木の枝で作られたお皿みたいな巣か、木を掘って中が空洞になっている巣が連想されます。

その『間』のようなものはどんな巣だろうか？もし人の感性がある鳥がいたとしたらどうだろうか？スケールの大小で鳥も人『間』も使える空『間』は出来ないだろうか？

そんな思いで『シンプルで且つ温かみを』テーマに、デザインしました。床と屋根の『間』のスリットから360度パノラマで景色を楽しめて、どこからでも出入り出来る場、奥にいく程プライバシーが保てて落ち着いた雰囲気になる。仲間が集まる場、土『間』のような空間になってくれたらと願います。

デザイン arbol 堤 庸策 製作 居七十七 野沢裕樹
材料 黒松 島根県 隠岐島木材業製材業(協)ウッドヒル隠岐



エコネスト
なかむらともえ
アーティスト



素材：普段はいらなくて捨てるような素材を使おうと思った。
和紙、折り紙、ティッシュ紙、新聞、お菓子の包み紙、自分で撮影した写真、枯れ葉、豆腐の入れ物、紙紐、イラストボード、アクリル絵の具。紙の入れ物を作る時に(台所で使う)ボールを使用。
地球と五大陸では常に争いごとがあるが、環境的には切り離せないということ。handmade paperで何かを作ろうというアイデアがあったので、紙でボールのような入れ物を作って「鳥の巣」に見立てる事にした。=小さいボールから練習して五大陸に見立てて5つ作った。大きい入れ物も造りたかったのでそれを地球に見立てた。全ては切り離せない、ということで小さいボールを紐でつなげた。その中の鳥や動物は同時に私たち人間を意味する。二つの豆腐の入れ物の小動物は五大陸に入りきれない「少数派」を意味する。イラストボードは空に見立てた。地面ではなく空に浮かんでいる。=自由の象徴。



BirdHub~MOFUDAMA~

【西野ももじ】と愉快な仲間達

株式会社カナデクラフト デザイン業

Ustreamの24時間配信【オカメインコのももじ〜ルーム】
<http://www.ustream.tv/channel/inko>を中心にSNSでつながった全国の鳥(インコ)さんの換羽した時に抜けた羽根を送って頂き、1つの作品として新たに開花しつなげたHub。
 インターネットにつながっているこの作品は、単に鳥籠という枠にあてはまらない鳥飼同士の情報交換まで可能にした未来のバードハウスであり、鳥友達の魂を集結させた僕らの地球。



〈裏と表〉

Ninotsugi&yoshiki(画)

IROHA

ブランドクリエイター



〈時代の裏と表〉今生活をしている地球では、数え切れないほどの裏と表が存在しています。生命誕生の裏で絶滅という終焉が迎えられていたりします。それは自然に起きる事であり、時には人工的に起こってしまいます。しかし、人工的に絶滅を保護している事も事実であり、本当の意味での自然との共存が近くなってきているのかと思います。
 裏と表の世界が交わる時、新たなバードハウスが誕生します。
 〈自然軸による共存〉デザインは時代ごとの裏と表、自然と人工が背中合わせになっている模様を水軸に立って表現しています。互いに行き来する事は簡単でも、共存は難しい。その繰り返しこそが地球を軸とし時代を超えて共存できる世界を結び付けると考えます。
 〈歴史を行き来できる時代が来る〉向かいあった時代は誰もが住みやすく、誰もが手を差し伸べる事ができるキッカケを与えてくれます。これが裏と表におけるバードハウスの可能性です。

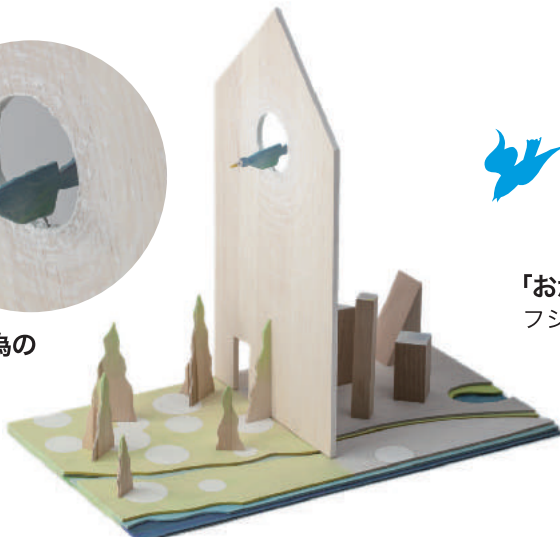


都市と自然を行き交う為のバードハウス

橋本文女

CATBOX イラストレーター

このバードハウスは鳥達の住まいではなく、都市と野山や森の間を自由に行き交う為の出入口です。バードハウスの入り口に留まる鳥の目線の先には豊かな自然が広がっています。都市に暮らす私たちには、豊かな大自然は遠く存在ですが、鳥はこのバードハウスを通して都市と大自然の2つの世界の間を自由に行き交うことができます。都市の中に自然を取り入れた街づくりが多くなってきました。人々がこのバードハウスを思い描くことで、さらに都市の中に豊かな自然が生まれていくことを願います。



シジウカラの巣箱

日根伸夫

Noi Planning Studio プロダクトデザイナー

“これからの時代は…云々という大上段のコンセプト”や“率”や“数”を用いて語ることは、私の残りの時間の中では少しずつ減らしていきたいと思っています。もっと現実に沿った“個”や“名前のあるもの”に対する行動を増やして行きたいと考えるからです。

今回制作したバードハウスは、公益財団法人日本鳥類保護連盟によりネットに掲載されている巣箱の作り方でできるだけ近い形で制作しました。展示後回収させて頂き、実際に鳥に住んで頂きたいと思っています。そこを、観察し勉強する。私がバードハウスについて語れるのはそれからです。



ソラトコウエン

藤林朋実

テクニカルライター

収納しやすいように、マトリョーシカ人形をモチーフに制作した巣箱。青空と白い巣箱のコントラスト、不思議な国に迷い込んだようなユニークな公園を一枚のパネルにまとめました。

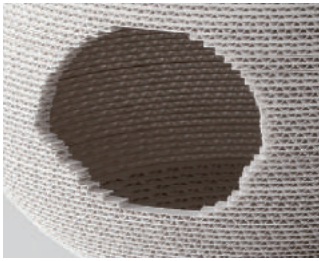


「おかえり。」「ただいま。」

フジモト芽子 画家



小学校の屋上に ハト小屋があった。そこから新しい団地が 遠くにならんでいるのが見えた。日本は高度成長期で大阪万博では未来がやってきたと思った。イヌやネコはお店で買うのではなく いつの間にか空き地にて いつの間にかいなくなるものだった。マユ毛を描かれたイヌが校庭を走り回ったり 生態系という言葉も知らずに子供が道に落ちた小鳥を拾うと大人が手当てをしたりした。今より道徳も知識も未熟な世の中だったのかもしれないけれど 四角い箱になり始めた町に それぞれ自分にあった形の家と鍵を持って 共存している心地よさをぼんやりと覚えている。閉じこもるためではなく お互いに適度な距離を持つための住まいや鍵。そんな風景を描きました。その頃ヒトが感じた未来に 何かヒントがあるのじゃないかなと思って。

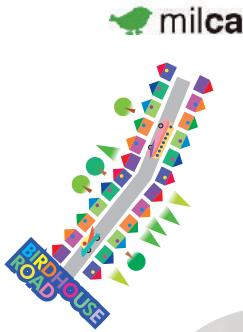


巢をみる・巢からみる

堀内幸子

RIADO 建築設計デザイン

不思議な白い球体
隙間からチラチラ見える 鳥の親子
鳴き声が聞こえる
巢の中から見える 外の風景
隙間からチラチラと見える 木々と揺れる影
ときおり吹いてくる 爽やかな風
鳥と人のゆるやかな関係
スケールを大きくしていく
人が巢の中に 鳥は巢の外に
お互いの存在を感じながら
変わらないゆるやかな関係

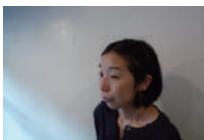


月夜の花園

maigo-shop!

服飾雑貨・帽子制作

月に照らされて青く光る花の園。
休息する鳥たちのための巢。
作品はヘッドドレス。月光浴している人
の上(花園)で、鳥が休息しているイメージ。

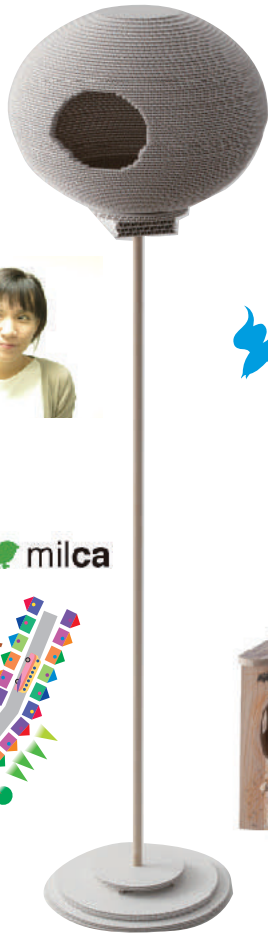


birds and human world

宮川 妙子

ギャラリー代表

鳥の世界に人間が住んでいるのか、人間の
世界に鳥が住んでいるのか、このバードハ
ウスの中では人間の住む街と鳥の住む世
界が曖昧になっています。
スズメやツバメのように人間の生活範囲
に密着して生活している鳥もいます。
自然から搾取するだけでなく、与えること
もできる存在でありたいと思います。



a place for food.

宮崎友湖

デザイナー

家の柿の木にやってくる鳥達のために制作しました。
マテリアルは銅と磁器を使用しています。

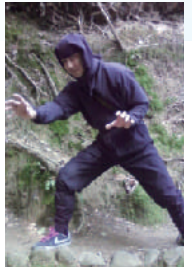


野球少年の鳥かご

ムラバヤシ ケンジ

morrison 木彫作家

野球好きの少年が鳥かごを作るとどんなの
になるだろう?と、イメージして制作しました。
前面は長島名誉監督、右面は複数の穴から鳥の
顔出す場所によって野球ゲームが楽しめます。
左面は穴から鳥が顔を出すバットの振る選
手の様、背面はスコアボード。
遊び心を沢山盛り込んだ鳥かごです。

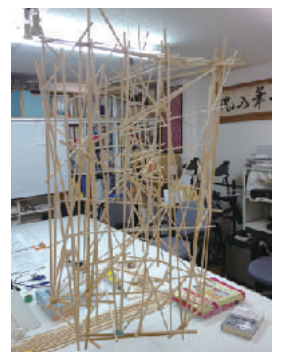
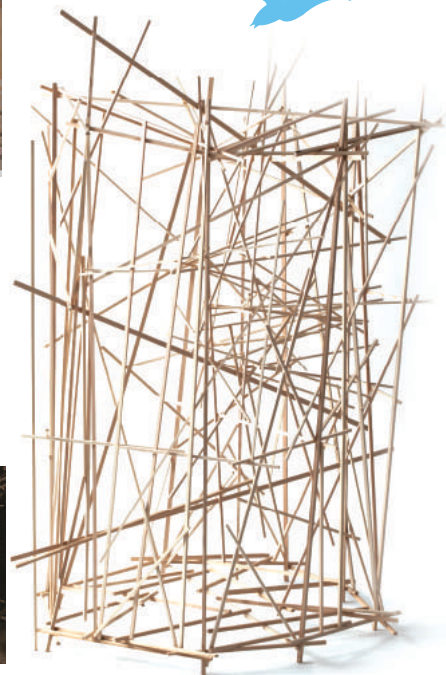


カゴトリ

山口達也

I.L.D.inc. セルフビルドアーキテクト

内部が外部であり、外部が内部であるような
正義が悪で、悪が正義のような
男が女で、女が男のような
誠意が邪心で邪心が誠意のような
夢が現実で、現実が夢のような
どこかで見たような、初めて見たような
軽いくらい重く、重いくらい軽いような
熱いくらい冷たく、冷たくらい熱いような
複雑がシンプルで、シンプルが複雑のような
そんなことがいつも気になっています。
バードハウス自体が鳥そのものであり、
鳥そのものがバードハウス自体であるような
そんなイメージをインсталレーションで作りました。



平面部門



花摘鳥の家づくり
池田竹雲
画家

花を摘み 世界中を飛び回る花摘鳥が、枯木に花でお家をつくる物語。そんな絵本の様な世界で表現しました。



Drifting House
大場康弘

Neuhaus Illustrations
イラストレーター



自然環境の中に見られる鳥たちの巣作りは、見事に環境にだけ込み、利用し、そして遅くその知恵を親から子へ伝えようとしています。私たちこそ彼らに学び、知恵を授かることが必要な時期に来ているのかもしれない。なぜ、巣箱(バードハウス)が必要になったのかを振り返り、環境をはじめ、多くの問題を抱える中、次の世代により良い未来が訪れることを信じ、少しでも彼らの知恵と謙虚さを伝えることができればと思います。作品は、草を編んで作られた鳥の巣と森やそこに棲む生き物たち、そしてその知恵を次の世代に引き継ぐ箱船のようなイメージとを重ね合わせました。



和
—harmony & cycle—
上田ゲン

nanany グラフィックデザイナー

人と自然、動物や植物の共生。食物連鎖という循環への回帰。使用しなくなった、丸い穴の空いた木製品を巣箱にしてみようという試み。木製のギターはその象徴。



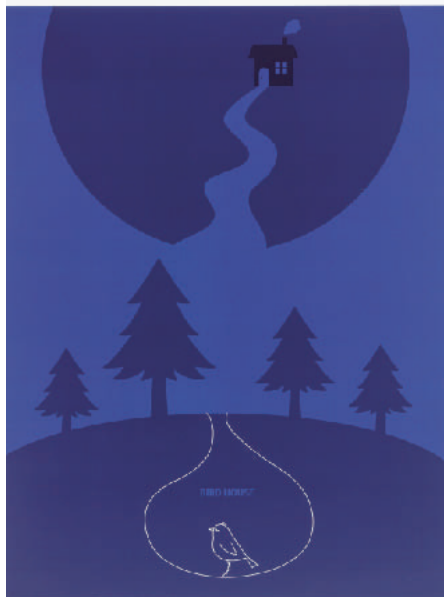
わたしのスパコ
大村雪子

デジタル彩 グラフィック・WEBデザイン制作

植物・生物・動物・鳥・人と共存している大自然の中、鳥も私たちも自由に好きな色を色紙のように自然・街・家を変えられると、雨の日も幸せに暮らせるだろう。そんな思いで色紙で切り取り、スパコを作りました。出来たスパコを撮影し、画像を加工して作製しました。



安眠
榎本奈智恵
スタジオ・ナビチ
イラストレーター



TRIMMING HOUSE
(トリハウス)

黒田タカシ
nanany アートディレクター

人の思う『家』を記号化し、枠組みを作った。自然をトリミングしたかの様なその空間に鳥たちは、それを無視するかの様に多様な巣を作りこむ。そしてオリジナルのバードハウスが完成する。



静かに眠れる場所を探して...



鳥たちの住むところ

近藤仁美 絵描き

鳥を描くのは高校のとき愛鳥週間のポスター以来かもしれません。今回のバードハウスについて、バードハウス(巣箱)を鳥たちの住処と考えたところ、樹に仲良く暮らしている様子を思い浮かべました。

鳥たちが話をしたり、歌ったり人間のように生活しているのではないのでしょうか。私たちが鳥たちのように楽しく過ごせたらいいですね。

飛ぶ鳥を見たり、過去の資料を引っ張り出して描いた作品です。



バードハウス観覧車

筑濱カズコ
筑濱プロダクション 漫画家
観覧車にバードハウスがあってもいいじゃないか!



バードハウスシティ・マップ

橋本修一
CATBOX-X グラフィックデザイナー



まずは自分でやってみよう!

佐野千敏

サノデザイン 商業デザイナー

私は広告制作のデザイナーである! そう! プロダクトデザイナーではないのだ! しかも! こともあろうにムービーとグラフィックで参加! ムービーから最初に考え作り始めた! プロの映像作家ではない私だが! できることしかできない! まずは巣箱のラフデザイン考えたり! それも極力シンプルに! デコラティブにならないように! と! 鳥と人と自然の共生! 持ち運びに便利巣箱? いつでもどこでも巣箱? いつも人といっしょ巣箱? 「あ〜人間目線過ぎるアイデアかなあ?」と! 鳥目線がわかるはずもなく! ドリトル先生がいたらなあと思った! 聞き直って! まずムービーが出来上がった! それをフィードバックしたものがこのパネル! 私のラフデザインした巣箱をすべて! 形に出来たらうれしい! それも 飛騨高山の家具の匠による巣箱がみてみたい! 木の巣箱! 叶うなら! 出来上がったその巣箱に小さく変身して! 中に入りたいものだ! 鳥の気持ちがわかるかもしれない!

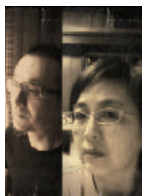


バードハウスが集まって街が出来ました。

鳥が人間の様に暮らすなら、どんな街に住むだろうか?

そんな事を考えながら地図を描くのは刺激的です。鳥は都会の便利さと自然の安らぎのどちらも犠牲にしません。バードハウスの出入口から都会と自然の両方の世界が広がります。高層バードハウスエリアには駅、店舗、ホテル、ビジネスや文化施設が集り、私たちの暮らす街によく似ていますが、山や森が隣接しています。山頂へ行くゴンドラ、川辺にはビーチやヨットハーバーなど自然リゾートとビジネスが融合するエリアです。バードハウスは車やバスの移動に便利な幹線道路に沿って並び、高速道路や鉄道は地下で隣接する街へつながります。バードハウスに囲まれた内側は山と渓谷、森と湖の広がる自然エリアです。

バードハウスシティは現存する街の平行ワールドのようです。

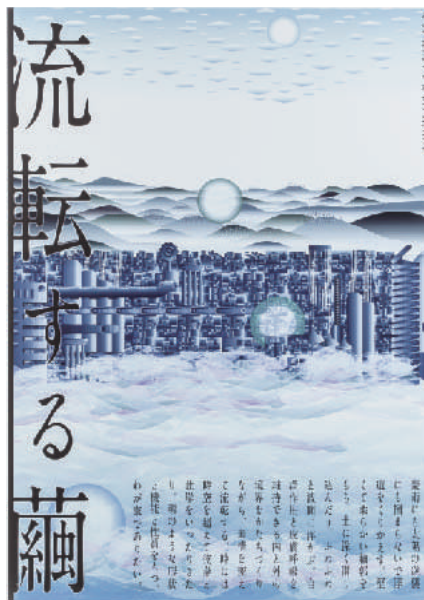


流転する繭

蔵合重一・上畑ナオミ

有限会社シエル・カンパニー
グラフィックデザイナー・コピーライター

地球環境は多様な影響を受けて変化しています。地震活動を含める気象の変化、人類の科学信仰と市場経済のグローバル化、人口増加などによってますます循環機能はアンバランスになっています。こうした人類の動向を背景にすると、個人とその営みのレベルで、巣箱のあり方を問い直してみる必要があるのではないかと感じます。「どんな環境下においても、外部環境との調和を図りつつ自律できる巣箱とは?」をコンセプトに制作しました。



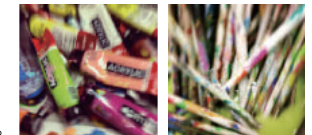
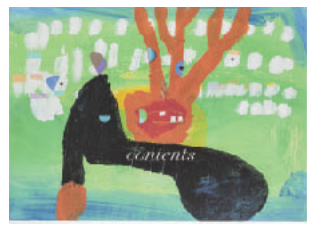
contents

平野こうじ
イラストレーター



【content】k_ntent

- (1) 中身, 内容物, 記事
 - (2) 項目, 目次
 - (3) 容量, 包容能力
 - (4) 含有量, 体積, 面積, 広さ, 大きさ
 - (5) 望みをかなえて, すべて満ち足りた
- 人類はたくさんの知恵を生み出してきました。思いもよらない事を生み出すには、想像を越えた想像力が必要です。溢れる情報の引き出しから何を取り出して、何を役に立てばいいのだろうか? 自然と共存する、より佳い暮らしと未来のために。





BIRDHOUSE CRUISING

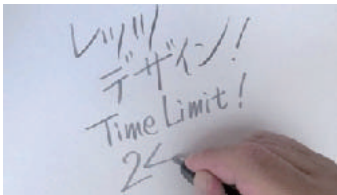
(バードハウス・クルージング)
 広岡正司

グラフィックデザイナー

自然は豊かで優しく人を包み込み、心を安らかにしてくれます。でも時として猛威を振る人間に襲いかかってきます。人間も自然の一部であり、自然の中で生かされている存在です。人は開発という名の下に自然を傷つけ、また技術進歩に伴い様々な人工物を造り出して来ましたが、それは役目を終えるとゴミという存在となって自然破壊を起こします。しかし自然の物は朽ち果ててもまた自然に戻り、他の生物の栄養となり、次の世代へ繋ぎ続けるという循環のサイクルを作ります。バードハウスもこの自然物をうまく利用して、環境に優しい姿であるべきだと考えます。例えば椰子の実を少し手を加えることにより、鳥たちに住み心地のよい棲家を提供出来るのではないかと思います。このことは地球にとっても豊かで優しい環境です。波に揺られた椰子の実は、揺りかごのように羽を休めた鳥たちにも一時的の休息を与えてくれるでしょう。



映像部門



まずは自分でやってみよう!

佐野千敏 サノデザイン 商業デザイナー

鳥の巣箱! 作ったことがない! そして私は広告制作のデザイナーである! 「巣箱のラフデザインはできるんちゃうか?」と思い参加した! プロの映像作家ではない私だが! 「そうや! 絵本みたいな物語でけへんかな?」と絵コンテをせっせと書いてはつぶし! まとめ! できたあ! 相棒にみせた! 「ええんちゃう」と! さあ! ロケハンや! 大阪の梅田! 交野市! 都市と山々! デジカメ片手に! 撮影! 編集! 音入れ! 素材を描いたり! 足りないシーンは再撮! そうして完成! できあがり! 素人なりの精一杯! 楽しい! しかあーし! ここにきてテーマが決まらない! 「エコがエゴになっていないか!」って! 押しつけがましいなテーマにするには! 「まずは自分でやってみよう!」に決めた! 私のラフデザインした巣箱を形に出来たらうれしい! 飛騨高山の家具の匠による巣箱がみてみたい! 木の巣箱! 叶うなら! 出来上がったその巣箱に小さく変身して! 中に入りたいものだ!



君と僕の小さな巣箱

Yocco

イラストレーター

人間はいつの頃から必要以上に自然からものを奪うようになったのか... 知の食べ物を食べたアダムとイヴの小さな愛の巣の始まりと巣箱をリンクしてみました。

milca Produced by ENTER PAPER



※この表示のある作品はmilcaを使用して制作されました。

milcaについて

milca プロジェクトチーム ENTER PAPER 様のご協力により、バードハウス展に参加されるみなさまに、ダンボール素材をご提供いただけることになりました。milcaとは、milk cardboardの意味で、主に廃棄された牛乳や日本酒などの紙パックを原料とし、100%再生されたダンボール素材のことです。表面・断面ともに白く、強度も高く、曲げ加工も可能なことから、立体物の製作に適しています。また、インクジェットプリントと相性がよく、きれいな発色で全面プリントができ、よりクリエイティブな表現が可能です。さらに、環境保全の点から、適切に管理された森林およびその森林から生産された木材・木製品・紙製品に与えられる『FSC®/CoC認証』を取得しています。



協力 ENTER PAPER
<http://enter-paper.jp/>

メビック扇町での説明会

世界の作家たち



アクセル・シュルテス Axel Schultes (ドイツ)

1943年11月17日ドレスデンに生まれる。1963年-1969年ベルリンで研鑽を積む。1972年、バングルト、ヤンセン、ショルツ(BJSS)事務所を共同設立。1992年始め、シャルロット・フランクとクリストフ・ヴィトと共同で事務所設立。

これは説明ではなくおとぎ話です。その題名は、「どのようにして最初の鳥が生まれたか? (How the first bird was born)」といいます。地球上にまだ鳥が存在しなかった頃の話です。これは、母なる大地と父なる空と、彼らの間を行き交うメッセンジャーと成り得ると考えた、あるものについてのお話です。これは弱いタマゴで、恐竜の卵にも似たものです。私が最初にバードハウスについて考えたとき、人間に利用されるような建物や家ではなく、鳥自身のためのものをとを考えました。そこで私は、鳥の起原としての卵を思いつき、小屋を与えるという点を思いついたのです。そこで私は、ただの小屋としてではなく、卵自体がまだ生まれていない命の小屋に成り得ると考えました。それは、鳥が生まれる時に壊されるものです。それで私は、木のどこかに釣り下がった卵という発想から、スタートしました。これは、卵が発端となったもので、私が深く考えた自分の足で歩く建築物のイメージです。

●ミュージアムデザイナーのつくったバードハウス/2004



アルファロメオ Alfa Romeo(イタリア)

1906年、自動車会社ダラクイタリア社が設立され、間もなくアルファロメオ社の前身となるALFA社(Anoni-ma Lombarda Fabbrica Automobile)に売却される。1915年エンジニア、ニコラス・ロメオ氏がアルファ社を買収、1920年代同氏が全社をコントロールし、生産車に自身の名前をつける。

1986年よりアルファロメオ社は、フィアットグループの傘下に入っている。同社は、自動車生産の初期段階から、世界のリーディングカンパニーとして数々の名車を世界の舞台に送り出している。



卵型アルファは新しい鳥の巣 (Egg HOUSE) です
鳥は鳥の卵を孵すようにして作る
車は車の部品を、このようにして作る
(鳥の巣、卵は鳥が作る。鳥は鳥の卵を孵す。車は車の部品を、このようにして作る。)



人は自分の「巣」を引かずして移動するものです。それは、標準的なサイズの「カプセル」ですが、内部は好みによって変えられます。カプセルはモジュール(規格車台)に簡単に取り付けられます。車台には車輪、エンジンがついており、世界中どこでも手に入ります。車台には、同じサイズの三つのタイプがあります。電気モーター付きの都市用。ディーゼルモーター付きのハイウェイ用。そして特殊車輪とサスペンション付きのオフロード用です。車全体を買っておき、列車などで旅行に出る時に車台を預けておく。目的地に着くと別の車台が待っています。旅行中、カプセルは仕事場やくつろぎの場になります。カプセルはシングル、カップル、家族と用途に合わせて利用できます。

●カー&ヨットデザイナーのつくったバードハウス/2000



アレッシェンドロ・メンディーニ Alessandro Mendini (イタリア)

家具、環境デザイン、絵画、設備デザイン、建築デザインなどを手がける。Alessi, Philips, Cartier, Swatch, Hermèsなどの会社とコラボレートして、イメージやデザインなどの工業コンサルティングをしている。エルザレム芸術デザインアカデミーバザール名誉会員。1979年、1981年にゴールデンコンパス賞受賞。フランスでは、Orfèvre des Arts et des Lettresと称される。ニューヨーク建築連盟から名誉勲章を授与。

世界の多くの近代都市は、一様に均質化する傾向にあります。この作品は、その中に特徴的な「美」をもったフォルムを導入しようというコンセプトから生まれました。それは象徴的なフォルムでもあり、世界中、どの都市に置かれても、またどのような大きさ、プロポーションによっても通用するように考えました。さらに、高さを変えながら、複数の超高層ビルとして繰り返し使い、ひとつのスカイラインを形成するというイメージももっています。それは、世界中のすべての人々に愛されるフォルムとなります。薄紫色は、非常に繊細な色で、空と大地との対照、あるいは朝日や夕暮れの光の色とマッチするよう考えたものです。これは、「彫刻としての建築」という、私が現在研究を進めているテーマの、ひとつの解答でもあります。

●ミュージアムデザイナーのつくったバードハウス/2004



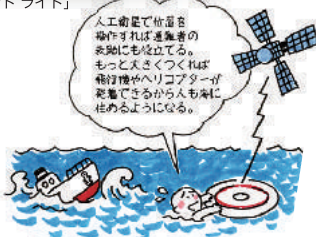
「パーク アンド ライド」



アルバート・ガンベル Alberto Gambel(イタリア)

目指すのは、「非上級者」向けのヨット作り。いつの日か必ず、地中海にある一流ヨット・スクールで、自分がデザインしたヨットを使い、プロだけでなく誰もが操縦技術を学ぶことができるようになることを信じている。「MELASTRIP PROJECT」で国際デザイン賞(Compasso d'oro)にノミネートされる。「MELASTRIP PROJECT」とは、ウィンドサーフィン装置で、小型ヨットを操縦するプロジェクト。ヨットとしても、ウィンドサーフィン用としても使うことができる。

この作品のアイデアは2年前にあるレストランで生まれました。一般的に言って、鳥は大洋を横断します。これがあつと横断中の鳥は、休息して、真水を飲み、飛び立てるのです。海水が船体に入ると、太陽エネルギーで海水が蒸発し、その蒸気が凝縮して、飲料水になります。今では太陽ホットプレートを使って海水の脱塩が出来るのです。船体の内部に太陽ホットプレートと凝縮パイプコイルがあつてその変換ができるのです。問題は、メンテナンスです。でも大丈夫。「パーク アンド ライド」は、自動洗浄。自分でメンテナンスができるのです。このためにパラストを使います。海水がパラストの中に入り、嵐になると「パーク アンド ライド」は海中を回転するのです。 ●カー&ヨットデザイナーのつくったバードハウス/2000



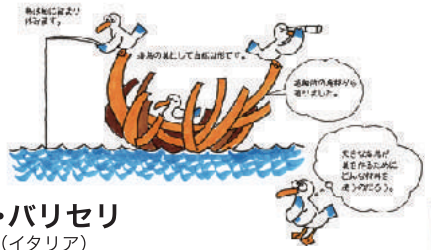
アンドレア・バリセリ Andrea Vallicelli (イタリア)

彼のデザインによるレーシング・ヨットとクルーザー・ヨットは世界各国で150艇に上る。代表的なのは、ジグランド、カンドス、コルネット、ジェネシー、フェニックス、ショー42、ULDB65フィート、オセアノ54フィート。1983年、この一部がミラノのPAC(コンテンポラリー・アート・パビリオン)に展示される。1983年ニューポート市(米)と1987年パース市(豪)のアメリカズ・カップに出場したイタリアのチャレンジャー、IRCヨット(12m)、アツォーラをデザイン。

船というのは鳥の巣のようなもので、のんびりと風を待っているかと思えばひどく荒れた海上に暮らす人々を受け入れて避難所を与えるものなのです。バードハウスのテーマに立ち向かったとき、この帆船のような形から出発して、鳥、(海鳥)のための巣を考えつくに至ったのはごく自然なことでした。

こういう帆船のようなものを置くのにふさわしい環境は海や海岸ということですが、船が造られる造船場という人間の営みの場もまたふさわしい環境といえるでしょう。

●カー&ヨットデザイナーのつくったバードハウス/2000



アンナリーザ・ドミノーニ Annalisa Dominoni(イタリア)

建築家・工業デザイナー。ミラノ工科大学で工業デザイン博士号、建築学修士号を取得。現在はミラノ工科大学建築デザイン学部の教授で、スペースラプの研究計画、宇宙工業デザイン研究室の主任を務める。イタリア宇宙事業団(Italian Space Agency)、欧州宇宙機関(European Space Agency)との共同研究。

マリア・ソメーラ・グロッシ Marina Sommella Grossi(イタリア)

このバードハウスコンセプト、即ちそれは避難所であり、巣であり、給餌台であり、交わり合う場所であればなりません。それはまた、巣の安全のために、巣を隠し、偽装すると云う必要に応えるものでなければなりません。それは住まいを分かち合いながら共同して生きているいるな種類の小鳥たちのための設計です。鳥たちはそれぞれ独自の生き方、独自の適した場所があります。他の種類の鳥や、食べ物や、大敵に対して独自の関係を持っています。

彼らは同じ住まいを異なるルールに従って異なる時に使うことができるのです。このバードハウスはよくありふれた自然の素材を結びつけた設計です。それは木材の持つ大地の暖かさや金属の持つ冷たさを混ぜ合わせ、対比させます。前者は柳、後者はアルミニウムです。



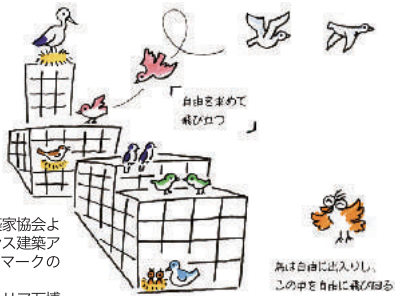
「空行く月のバードハウスプロジェクト」

●宇宙デザイナーのつくったバードハウス-2/2008

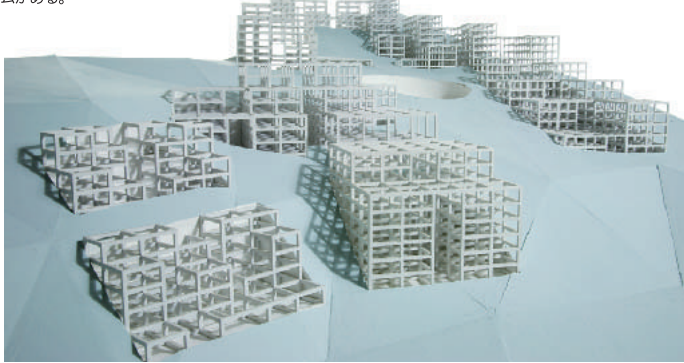


安藤忠雄 Tadao Ando (日本)

1941年大阪生まれ。1985年に日本人で初めて、フィンランド建築家協会よりアルバ・アールト賞を受賞。1989年、フランス建築アカデミー賞、ゴールドメダル受賞、またデンマークのカールスベルグ賞の第1回に選ばれる。その他受賞多数。最近の作品に1992年セヴィリア万博日本政府館、直島コンテンポラリーアートミュージアムがある。



鳥は自由に出入りし、この中を自由に飛び回る



「バードハウス」は昔から、農業上、害虫駆除のため、鳥を拘束、利用するために作られたものでした。もともと鳥自身のために作られたものではありません。ここにおかれた「バードハウス」は鳥たちのために用意しました。この作品を見て想像してみてください。単純なジャングルジムのような立体格子でできています。このバードハウスの寸法はあなたが自由にきめていいのです。その自由な発想が、鳥達を自由にします。やがて鳥達はこの「バードハウス」に集まり、その中を自由に飛び交います。そして、自由を求めて、また大空へと飛び立っていきましょう。 ●建築家のつくったバードハウス/1993

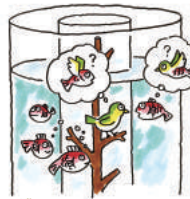


アンドレア・ブランジー Andrea Branzi (イタリア)

1936年フィレンツェ生まれ。60年代よりイタリアのアバンギャルドグループとして知られる。アーキズムメンバーとして活躍。70年代後半にはスタジオ・アルキミアの活動に参加。80年代にはメンフィスのメンバーとして家具デザインを手がける。79年にゴールデン・コンパス賞受賞。83年にドムス・アカデミー創立以来、同校の教授を務め現在は副校長。



「Am I the Bird? or the Fish?」



遠い昔、西洋文化における人間と自然の関係は対立と相違を示すものでした。自然界には自然の掟、季節、そして自由があり、一方で、半永久的に変わることない建築用語の中で建築社会が存在していました。今日、その相違は克服され、もはや人間は真の自然と人工物のはざまに暮らしているわけではありません。すべてが交ざりあい、融合し、多義的な意味を持つようになったのです。産業テクノロジーが第二の自然になっていく世界では、真の自然と近く結び付きながらも、我々は異常であることが正常という概念を基盤とする社会に住んでいるのです。不自然な自然の中に追い込まれてしまったのです。これは大変な損失ですが、と同時に斬新さを露呈しています。故に私はこのバードハウスを思いつきました。水槽というバードハウス（逆説的）であり、自然という独自性の崩壊を示唆しています。しかし、また新たな発見もあります。まるで魚が空を飛び、鳥が泳いでいるように見えます。 ●インダストリアルデザイナーのつくったバードハウス/1993

RFR

ジャン・フランソワ・ブラッセル (フランス)



R.F.R.は、故ピーター・ライスにより設立された構造デザイナー集団で、パリを拠点に活動している。ジャン・フランソワ・ブラッセル 1956年フランス生まれ。オレゴン大学大学院を修了。R.F.R.のディレクターとして活動するほか、建築雑誌「テプリアン」の編集委員などを務める。



自然の中に有り余っている素材の多くは、伝統文化にはぐくまれて工芸品になったり、動物に利用されるなどといった、長い歴史をもっていることが多いのですが、現代建築においては材料としての価値は認められません。しかし、葦、小枝、藁、竹などは、簡単に手に入る素材のうちに入り、バードハウスの技術的、経済的目標に見合うものです。これらの素材を使って建築物を造ることは、特定の状況には適しています。また、これらを使うことは高い技術や熟練を必要とし、さらには独自の表現や美学を生み出すのです。 ●空港デザイナーのつくったバードハウス/1998



イデア I.DE.A (イタリア)

この20年間で手がけた車のデザインは、フィアットのディーポ、ランチア K、日産のテラノ(オフロード)、ダイハツのムーブ、フィアットのパーリオ・ワールド・カー・シリーズのモデル。最近では、インド初の国産車、タータ・インディカ (Tata Indica) など枚挙にいとまがない。



美しい青空にまざる家はない、これが我々のバードハウスの出発点です。次に考えたのは世界中に我々のメッセージを運ぶコミュニケーションのシステムです。それはとても単純で、子どもらしく、いたずらっぽいものでした。我々のデザインしたプロジェクトを子供たちへ運んでくれる風船を思いついたのです。その風船を見つけた子供たちは自分自身のバードハウスをつくり、さらにその他の子供たちに新しいメッセージを送ってくれるでしょう。ここにお見せするモデルは再生物質を使った、環境にやさしい設計になっています。子供たちも自分の独創性と直感で自分のバードハウスをつくれるのですよ。世界の自然の循環を妨げてはいけません。そのためには環境を大切に、再生とその和を確実にすることです。 ●カー&ヨットデザイナーのつくったバードハウス/2000

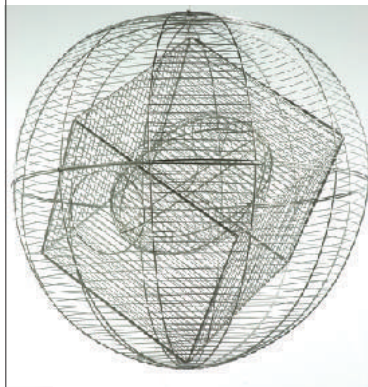
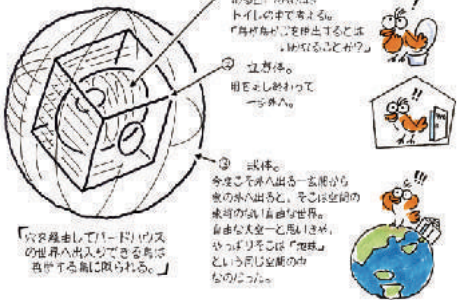


「風が運ぶバードハウス」



黒川紀章 Kisho Kurokawa (日本)

1934年名古屋生まれ。京都大学工学部建築学科を卒業後、東京大学大学院に進み、博士課程修了。1970年の大阪万国博覧会パビリオン、中銀カプセルタワービルなどで注目を集めた。以後、庁舎、オフィスビル、美術館、ホールなどの公共建築を多数手がける。主な作品は、空港施設では、クアラルンプール インターナショナル・エアポートターミナルビルプロジェクトが進行中。



楕円回転体、立方体そして、球体は、いずれも吊られており、それぞれの回転、振動、ずれ、ねじれによってそれらの関係は、一瞬たりとも同じではありません。鳥が楕円回転体から楕円の穴を通じて立方体の部屋へ移動することができます。鳥は、正方形の穴を通して球の世界へ移動することができます。鳥はまた、円形の穴を通して、外へ移動することができます。球の外に出た鳥は、その自由に見える世界もまた、球形(地球)の大地で囲われていることを知りません。穴を通してこのバードハウスへ侵入できる鳥は哲学する鳥なのです。 ●空港デザイナーのつくったバードハウス/1998



ダニエル・リベスキンド Daniel Libeskind (アメリカ)

1946年ポーランドに生まれる。1985年のヴェニス・ビエンナーレのレオネ・ディ・ピエトラ賞を受賞。1987年にはベルリン建築家展に招かれ「シティ・エッジのための計画」が満場一致で採択され、建設された。1989年、ベルリン博物館、ユダヤ教博物館コンペの最優秀賞を受賞。



風成概念をすべて 本当に必要な空間を考えよう

「家を広く、開放的なものにしましょう」という言葉だけでは住みやすい快適さは表現できません。「扉は西側に大きいものをつけましょう」という決まり事はもう過去の慣習でしかありません。行き過ぎた建築の技術はもう必要はありません。では何か必要なのでしょう。はたして扉はどこにつけるのがよいでしょう。このバードハウスのテーマはその問題提起にあります。耳を澄まして風の音を聞いてみてください。その扉の付ける位置、場所が見えてくるはずですよ。 ●建築家のつくったバードハウス/1993

「建築・鳥かごのイメージを
取り表ったオブジェ」



紙が三面はってあるの
の子、てごらん。
何が見える?



チェザレ・マリーア・カサーティ
Cesare Maria Casati (イタリア)

1936年、ミラノ生まれ。ミラノで息子マッテオと、工業デザイン・建築事務所「スタジオDA」を共同経営。学生の頃から、複数の重要プロジェクトで故ジョー・ポンティと共に仕事をすることを得る。プロとしてデザイン活動を始めてからも、ミラノのクアルティエー・テッセラを初め、出版社ドムスの本社ビル、ソレントのホテル、パルコ・ディ・プリンチピ、エルバ島のカポ・デル・ペルレの都市計画等でポンティと共同してプロジェクトを達成。

この作品は、設計コンセプトであり、一種のアンビルト建築です。鳥かごというのは私にとって非常に魅力的なテーマでした。まず「鳥かごとは何なのか」ということを理解する必要があります。建築は人間のためのもので、鳥かごは鳥のためのものなのですが、建築は時として鳥かごと同じ意味をもつことがあるからです。私が考えたのは、モノとしての建築ではなく、それが建てられる場所によって変容する建築でした。それは、その場所の景観であったり、視界であったりします。それは自然の変容であり、別の言い方をすれば、自然をいかに理解するかということです。なぜなら、建築とは元来、自然の中に人工物を置くことにほかならないからです。ヴァーチャルな方法でイメージを排除しようという試みから生まれたのが、この作品です。

●ミュージアムデザイナーのつくったバードハウス/2004

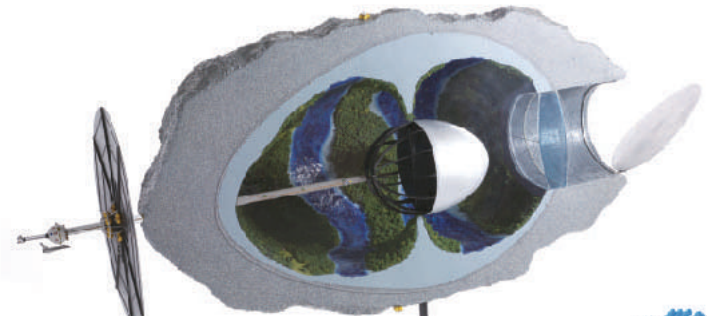


タッカー・ピマイスター
Tucker Vimeister (アメリカ)

1948年オハイオ州に生まれ。1979年に仕事を始め、6年後にスマート・デザイン Inc.を設立。年に一度開催されるIDデザインレビューで Serengeti 飛行士サンングラスをはじめ11回受賞する。作品に Oxo Good Grips のためにハサミとその他の台所用品をデザイン、Black & Decker の「メトロポリタン」トースターは雑誌「Appliance Manufacturer」の優秀賞を獲得。

バードハウスは鳥の美的感覚に合うように、デザインされたものではありません。なぜなら、彼らは、洒落た住宅よりも暖かい場所を探すことに、より多くの関心を持っているからです。このバードハウスは小枝から吊るして美しく見えるようにデザインされています。デザイナーがキッチンで目立つティーポット、注意を引くTVセットや画期的な建物を創ることは簡単です。しかし、人口が増えてしまった現在、我々の才能は失われつつある物を創造する方向に向かう、少なくとも風景に調和させることなのです。空間に新しい銀色の月が見えることは自然なことです。人類の誕生以来、人々は月の表面を見てきました。しかし、このバードハウスは銀色のバナナのように見え、表面にはラバの「鼻」の止まり木と2つの「目」のドアがあります。

●インダストリアルデザイナーのつくったバードハウス/1993



パット・ローリングス
Pat Rawlings (アメリカ)

1955年テキサス州グリーンヒルに生まれる。ヒューストン大学クリアレイク校で応用デザインとビジュアルアートを学んだ後、エアロスペース社の関連企業Eシステムに勤務。1978年NASAのテクニカルアートに就任、隕石研究をスタートする。スペースアーティストとしてもロッキード社やマクダネル・ダグラス社、『スミソニアンマガジン』等に作品を提供している。

宇宙には数え切れないほどの惑星が太陽のまわりを回っています。その惑星の中をくり抜いて世界中から集められた、たくさんの鳥を住まわせるという計画がこのバードハウスです。くりぬいた惑星には、森や湖があり、大きな鏡を使って太陽の光がはいるように設計しました。もっと、大きな惑星をくりぬけば人間が生活することもできます。実際にある「セレス」という惑星でこのような実験をすれば、100億人が暮らすことが可能なのです。そう先の世でなくとも、近くの星まで旅行をするというようなことが、実現できるはずですよ。

●宇宙デザイナー(NASA)のつくったバードハウス/1996



ブランド・グリフィン
Brand Griffin (アメリカ)

有人宇宙船の指導的設計者の一人。自分の会社を始める前に、ボーイング社で12年間働き、そこで宇宙船と宇宙基地、月面 歩行服(lunar rovers)宇宙服の設計をした。ジョンソン宇宙センターで、3回の奨学金を受け、現在国際宇宙大学の学部長である。

「重力に任せて
揺れるままに」



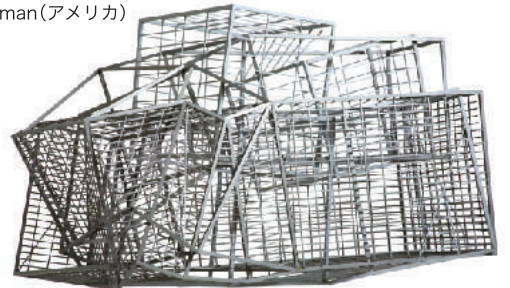
地球には重力があることを知っているよね。私たちは見えない力で地球の中心に引っ張られている。その力で月も地球のまわりをまわっているんだ。グリフィンのバードハウスは、その重力を利用したもの。ミノムシのようなかたちで、ゆらゆら揺れる構造になっている。素材はアルミニウム。とても軽くて錆びなくて、リサイクルに適したものでして、いろいろにも使われています。鳥が家に入りやすいように、木のドアにとりかえることもできるんだよ。

●宇宙デザイナー(NASA)のつくったバードハウス/1996



ピーター・アイゼンマン
Peter Eisenman (アメリカ)

1932年ニューヨークに生まれ。作品にオハイオ州立大学ウェクスナー・センター(1989)、小泉産業東京支社(東京、1990)、布谷ビル(東京、1992)等がある。また、チェック・ポイント・チャーリー&ベルリン・ウォールは西ドイツより表彰されるなど多くの賞を受賞。



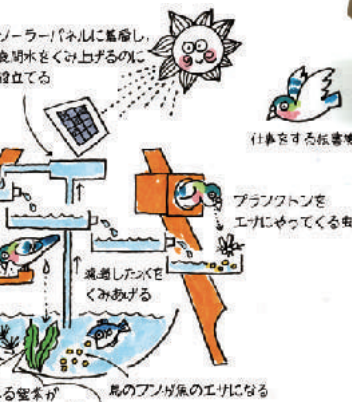
自然の中には、いろいろな音楽があります。風の音、動植物の音、人工的な音、それらが美しく重なり合う場所に鳥は巣を作り、生活すると思います。このたくさんの格子を使った「バードハウス」にはそんな思いが込められています。このバードハウスには中と外をつなぐ玄関のようなものはありません。鳥が自由に入り出でき、自由に創造できる場所を作りたかったからです。自由に人間と鳥が行き来できる場所、それがこの「バードハウス」です。

●建築家のつくったバードハウス/1993



フィル・ハーズ
Phil Hawes (アメリカ)

1934年中米イリノイ州生まれ。ごく普通の子供時代、フランク・ロイド・ライトの弟子。ブルース・ゴッフ、絵、彫刻、宝石、町及び地域計画、建築家、ビル建設者、煉瓦づくりの家、鉄筋セメントの舟、ジョン・エイリアン「科学者、アーティスト、冒険家になるために努力せよ」カウボーイ、農夫、船乗り、800km単独トレンギング、バイオスフィア2の建築責任者、教師及びコンサルタント。



フィルのバードハウスは、伝書鳩のためのもの。伝書鳩は何マイルも離れたところへ手紙を運び、疲れて帰って来るから、ゆっくり休ませてあげたいからなんだ。バードハウスのなかで休むハトの止まり木の下には水槽があって、そこに落ちたフンは、プラフクトンを育て魚の餌になります。水はいつも浄化されるよう、太陽のエネルギーを使ってポンプを動かします。つまり、このなかでひとつの生態系をつくっているんだ。友だちのための、ゲストハウスもあるんだよ。

●宇宙デザイナー(NASA)のつくったバードハウス/1996



2008
咸平世界蝶・
昆虫エキスポ
(韓国 咸平郡)

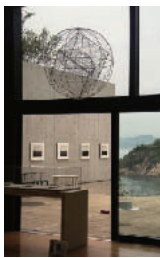


バードハウス展の開催

バードハウスに込められた世界中のクリエイターたちのメッセージを、多くの人々に伝えるために国内外での作品展示を行っています。世界中のアーティスト・クリエイターにバードハウス作品の制作を依頼。各地の自治体の支援のもと、公共施設を中心に「バードハウス展」を開催しています。地元のクリエイターや小中高大学生にも参加を呼びかける事で、より身近な活動として、未来環境を考えてもらいます。



大阪中央公会堂にて



瀬戸内 直島展
1998



バードハウス・プロジェクトin上海
森ビル(上海ワールドファイナンシャル・センター)



ロハス・デザインウィーク2006 東京丸の内ビル



「いのちのすみか」展イタリア文化会館(東京)
イタリア首相 ヘルルスコーニー氏を迎えて

講演会、バードハウスカフェ、ワークショップの開催

講演会を積極的に開催しています。また「バードハウス展」開催時にあわせて、参加クリエイターの講演会を実施。ワークショップや、バードハウスカフェの開催に力をいれています。子供たちに向けて、地元の小学校などの教育機関での講演も行っています。



2008年 世界蝶・昆虫エキスポ
金斗鉉氏(韓国)によるワークショップ



2009中国国際工業博覧会・上海世界
デザインフォーラムにて
設計の創造と万国博覧会について講演
(BHP芳野氏)



バードハウス・カフェ in 東京
(イタリア文化会館)

バードハウス・カフェは、科学者と一般市民が共にカジュアルに未来について語り合う場(サイエンスカフェ)のひとつです。未来の地球環境をテーマに、「我々の住空間(地球)」=バードハウスについてディスカッションし、ビジョンを描くワークショップを開催しました。



作品撮影/ニューメキシコ(アメリカ)



設営風景

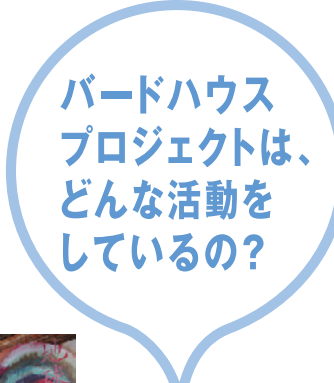


作品撮影/
パース(オーストラリア)



NPO法人 バードハウスプロジェクト

1993年に日本で発足。バードハウスを通して地球環境を考えるNPO法人。世界で活躍するクリエイターにバードハウスの制作を依頼し、作品に託した地球環境への提言を、展覧会を通して広く紹介している。また、世界の人々が国、文化、言葉の違いを越えるこのプロジェクトに賛同し、各国で独自の活動も生まれている。



バードハウスプロジェクトは、どんな活動をしているの？



移動図書館
「ブックワゴン」

東日本大震災復興支援活動 with ホンのちょっとしあわせはこぶ Book Wagon「移動図書館」

少しでも東日本の被災地のみなさんの力になれないか。私たちは、バードハウスプロジェクトに関わりのあったイタリアの建築家やデザイナーたちへ協力を呼びかけました。そして、「日本再生」をテーマにそれぞれの思いをビジュアルで表現してもらい、9種類の復興支援Tシャツを製作、販売。そのTシャツの売上金は、今年7月より被災地を回る移動図書館「ブックワゴン」の書籍購入費用として役立てられています。



アンジェロ コルテージ



アレクサンドロ メンディーニ



小泉産業株式会社 1Fロビーにて開催



大阪ステーションシティ ノースゲートビル4Fロビー

小さな美術館の開催

バードハウスプロジェクトの新しい取組みとして、2011年よりスタートした「地球プロジェクト 小さな美術館」。企業や大学などのロビースペースなどの一角を利用して、定期的に作品を入れ替え展示する事で、より身近に多くの人々バードハウスプロジェクトの理念と作品に接して頂くことが出来ます。小泉産業株式会社1Fロビー、大阪ステーションシティ・ノースゲートビル等で開催しました。

ボランティアスタッフの活動

バードハウスプロジェクトは多彩なボランティアスタッフや会員たちによって運営されています。アーティストとの打合せ、作品の撮影、作品展の設営を始め企画から広報まで活動内容は多岐にわたり、様々な分野のプロから学生まで多くの人たちが、それぞれの個性をいかして活動しています。スタッフは随時募集。あなたも参加しませんか？

- 理事長: 竹中友美 ●総合プロデューサー: 芳野大樹
 - 名誉顧問: 安藤忠雄、石井威望、泉真也、栄久庵憲司、黒田征太郎、竹中平蔵、松永真、湯川れい子(50音順・敬称略)
- 〒550-0005 大阪市西区西本町1-12-19 清友ビル2F
TEL/FAX. 06-6533-1501 mail: project@birdhouse.gr.jp

<http://www.birdhouse.gr.jp/>

これまでの展覧会、世界のクリエイターがつくったバードハウスなどをウェブサイトでご覧いただけます。

大阪から世界へメッセージ



あなたが思う、あしたのバードハウス

2013年11月22日(金)～12月1日(日)
平日 / 11:00～21:00 土日 / 11:00～19:00
会場:メビック扇町(大阪市北区扇町2-1-7 関テレ扇町スクエア3F)

オープニングレセプション

出展者ほか、どなたでもご参加いただけます。
日時:2013年11月22日(金)18:00～21:30
●参加費:1,000円(要申込) ●定員:80人

ギャラリートーク1

「バードハウス誕生から現在まで…そして未来へ！」
バードハウスプロジェクト総合プロデューサーの芳野大樹氏にバードハウスプロジェクトのコンセプトや目指すところ、また世界のクリエイターがつくったバードハウスについてお話しいただきます。
日時:2013年11月23日(土)15:00～16:30
●参加費:無料(要申込) ●定員:50人

芳野大樹氏プロフィール
NPO法人バードハウスプロジェクト 総合プロデューサー
1950年鹿児島県生まれ。
1987年コイズミ国際学生コンペを企画立案し実施。
1993年バードハウスプロジェクトとして「建築家が作るバードハウス」を企画立案し、「建築家・インダストリアルデザイナーの作るバードハウス展」を福岡ソラリアプラザにて開催。
2000年には学生たちが作ったバードハウス展を開催。その後、
2001年NPOバードハウスプロジェクトを設立し、北九州博覧会にも出展。
以降、2008年世界蝶・昆虫エキスポ展、イタリア文化会館バードハウス展、2009年上海森ビルバードハウス展、学生コンペ等、数々の企画を立案・開催。

ギャラリートーク2

「出展クリエイター プレゼンテーション」
出展クリエイターに、作品制作にまつわる思いや制作過程での面白さや苦勞、エピソードなどをお話しいただきます。
日時:2013年11月24日(日)15:00～17:00
●参加費:無料(申込不要) ●定員:80人

「BIRD FRIENDLY COFFEE by cafe百花moka」出張カフェ
日時:2013年11月23日(土)・24日(日)14:00～17:00(予定)
「バードフレンドリー・コーヒー」は、天然の森で野生栽培された、渡り鳥を守るためのサステナブルコーヒーです。

※詳細、お申込み等はメビック扇町ウェブサイトまで

<http://www.mebic.com/>
クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町
大阪で活動するクリエイターを応援するコーディネート施設

トーク & 参加型ライブペインティング

「黒田征太郎の世界」

バードハウスプロジェクトのロゴの制作者でもあり、我が国が誇るアートディレクターである黒田征太郎さんをお迎えして、クリエイターがつくるバードハウスの世界、そして地球や社会に対してクリエイターが果たすべき役割など、黒田さんのクリエイティブに対する世界観についてお話し頂きます。また、当日は黒田さんとともにライブペインティングに参加していただける時間も設けますので、ぜひご自分の画材を持ってお越しください。

日時:2013年11月28日(木)18:30～21:00

●場所:メビック扇町 交流スペース3 ●参加費:無料(要申込) ●定員:80人



黒田征太郎氏プロフィール

イラストレーター・グラフィックデザイナー。
日本工学院専門学校グラフィックデザイン科顧問。
アートディレクター、映画プロデューサー、アーティスト、ライブペインティング壁画制作等数々の作品を制作。

1939年 大阪生まれ。
1961年 早川良雄デザイン事務所に勤務。
1969年 長友啓典氏とK2設立。
ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ賞
1985年 講談社出版文化賞さしえ賞
1987年 日本グラフィック展1987年間作家賞
2004年 ビーボディー賞



バードハウスプロジェクト会員募集

■会員になっていただくと

- ・当プロジェクトが主催するイベント(講演会、作品展、各種ワークショップ、交流会等)にご優待させていただきます。
- ・講演会・ワークショップなどのご依頼があれば、企画立案し、ご提案します。
- ・ホームページのリンク、作品展開催時の企業名等を掲載させていただきます。
- ・作品集への個人、企業名を掲載させていただきます。
- ・正会員は当プロジェクトの総会資料が届き、あなたの声が反映できます。また、総会議決権をお持ちいただけます。

■会員種別

・正会員	個人	入会金	5,000円	年会費	5,000円
・正会員	団体	入会金	10,000円	年会費	20,000円
・賛助会員	個人	入会金	0円	年会費	3,000円
・賛助会員	団体	入会金	0円	年会費	10,000円

■お振込先

三井住友銀行 備後町支店
普通口座番号 1579943
名義 特定非営利活動法人 バードハウスプロジェクト

*入金確認後に会員として登録いたします。
*会費会計年度は、毎年4月1日から3月31日までです。
*一括納入とし、途中退会時の返金はいたしませんのでご了承ください。
特定非営利活動法人(NPO)バードハウスプロジェクト 事務局
〒550-0005 大阪市西区西本町1-12-19 清友ビル2F
TEL / FAX. 06-6533-1501



会員バッジ
(サンプル)

主催 大阪市、公益財団法人大阪市都市型産業振興センター クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町
共催 NPO法人 バードハウスプロジェクト
後援 大阪デザイン団体連合(OIS・JIDA・JID・JCD・SDA・DSA・FIDA) 協力 ENTER PAPER

お問合せ:クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町
TEL: 06-6316-8780(10:00～21:30 土日祝 休館) E-MAIL:info@mebic.com



MEBIC
CREATIVE NETWORK CENTER OSAKA

